

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気系教室内
洛友会

新たにご入会の

会員諸兄への歓迎のことば

会長 松田長三郎

母校京都大学では、今年も去る三月二十五日卒業式が盛大に行われました。学歌斉唱、合格証書授与、総長のことは、「螢の光」の斉唱で、目出度く式を終りました。ここに総数二、三九八名(内二二〇名が女子)の卒業生が、目出度く社会に巣立られました。ご当人は勿論、ご列席のご父兄のお慶びを察し、共々心からなる慶祝の誠意を捧げた次第でした。今年度の新卒業生は、表1の通りです。

これを見ても判る通り、工学部の卒業生が八二八名(内一〇名が女性)で、断然多く、これからの技術(日本)を支える有力な方々であるのは、甚だ心強い次第であります。女性の一番多いのは文学部で、一九三名中六四名で、約三人に一人が女性であります。これに比して工学部は、たった一〇名しかありません。しかしどの学部でも、女性の強盛な向学意欲には頭がさがります。洋々たる雄図を心に画いて実社会に第一歩を履

表 1

学部	卒業生数
文学部	193 (64)
教育学部	56 (13)
法学部	379 (32)
経済学部	181 (4)
理学部	270 (14)
医学部	123 (4)
薬学部	79 (41)
工学部	828 (10)
農学部	289 (38)
計	2,398 (220)

() 内は女子で内数

み出された皆さんに心からなる祝福の言葉を差し上げたいと思えます。

筆者が大学を出たのは、大正六年で、今から約半世紀も前のことであり、「学士様なら娘をやるか」と言った家庭小説が流行していた時代でもありませんが、今では90%の青年が高等教育を、40%が大学教育を思考すると言う文化国家に成長したことは、大変お目出度いことではあるが、人間形成は、必ずしも大学教育のみに依存するものでは無く、各人各人それぞれの日常普段の心構えによるものでありましょう。我国が世界も羨む経済大国として世界から見られるようになったことは、大変結構なことではあるが、国際的交流の旺んになって来た現在、私共は、善良な信頼のおける人間として、世界の信頼と尊敬を得るように、一人一人が努力したいものであります。

皆さんの修得された電気・電子・エレクトロニクスは、これから学術・社会・産業・家庭・その他、活動の中核となって行くであります。私共は自信過剰ながら、この活躍の主動者としての責務の重大さを思うのであります。私は皆様の自重と活躍をお祈りする次第であります。私は百万遍の一角を通る度毎

に、天下の英才、ここに集まると思って誇らしい気分を通り過ぎるのでありますが、このことは私共の大きい誇りでもあり喜びでもあります。皆さん各自の胸には、「京大卒業」の輝やかしいレッテルが張られています。願わくは、この誇りを胸に秘めて、謙虚に、しかし堂々と新界に雄飛して下さい。日本の将来は皆さん一人一人の双肩にかかっているのです。将来のご活躍の程をお祈り致し、且つ期待する次第であります。それでは皆様、ご気嫌よう。

昭和60年度洛友会総会通知

- 一、年月日 昭和60年6月1日(土)
- 一、場所 東京目黒八芳園 最寄駅 山手線目黒駅下車
TEL 03-4433-3111(代)
- 一、行事 受 付 13:00~
東京支部評議員会 13:30~
東京支部総会 14:15~
本部総会 15:00~
懇親会 16:00~17:30
- 一、会費 会員 四、〇〇〇円
同伴者 二、〇〇〇円

ただし、昭和60年3月卒業生は無料
会費は、別紙総会用振替用紙にてお振込みください。なお、これでは総会出席通知に代えますので、ご出席の方は、5月10日までにご返事をお願いいたします。本会へは、ご同伴を歓迎致します。多数お誘い合せの上、ご出席ください。

電算化名簿第2版の発行について

電算化された洛友会名簿の第1版が昭和58年12月に発行されてから早や一年半を経過し、本年12月には第2版が発行されることになっております。第1版では、校正の不備と居所不明者の存在が目立ちましたが、会員各位のご協力によりまして、より正確な名簿が作成される

ものと期待しております。

つきましては、第2版の名簿の発送を60年12月上旬の予定といたしますので、これに必要なコンピュータ入力、印刷、製本等の工程の関係上、「名簿訂正の締切期限を60年9月10日」といたします。この期日までに現住所、勤務先所属などの変更通知のあった方は、新名簿に掲載可能です。なお、既に振替用紙の調査票、又は葉書などでご連絡のあった方は、訂正済みです。

以上、より正確な名簿を作成するため、よろしく会員各位のご協力をお願い申し上げます。

特に日本電信電話公社などは、株式会社形態に変更されるため、職制移動が全面的に行われることが予想されます。該当する会員各位は、会費振込時、又は葉書などで所属部署、役職名等ご記入、ご連絡くださるようお願い致します。

教室だより

昭和59年度電気系教室

卒業生の就職・進学状況

- 電気工学教室主任 岡田 隆夫 (昭30卒)
- 電子工学教室主任 板谷 良平 (昭28卒)
- 電気工学第二教室主任 長尾 真 (昭34卒)

電気系教室の昭和59年度卒業生の就職ならびに進学状況についてご報告申し上げます。

ここ数年、産業界から電気系教室の新卒業生に対する求人は極めて活発であり、本年度も広い範囲の産業界から多数の求人を行いました。

従いまして、学部及び修士課程の就職希望者は、十一

月初旬までに就職先が決定いたしました。これは当教室の卒業生に対する期待が高いためであり、教室にとって誠に有難いことであります。

本年度は別表にありますように、学部および修士課程の卒業生は百九十三名であります。修士課程への進学者が七十六名と例年

種別	学部	修士	就職先
官公庁	1	2	国鉄, 宇宙開発事業団, 郵政省
電力	5	5	関西電力, 中部電力, 中国電力, 四国電力
通信・放送	4	3	電々公社, KDD, 朝日放送 NHK
電気・電子機器	20	41	日立, パイオニア, 松下電器, 東芝, 富士ゼロックス, 日本IBM, 日本電気, 沖電気, シャープ, 三菱電機, 三洋電機, 安川電機, ローム, 日本士通, ソニー, リコー, 富井田, ワコム
電線	1	3	住友電工, 古河電工
機械・自動車	3	1	住友重機, 三菱重工, トヨタ自動車, マツダ
精密機械	1	3	島津製作所, キヤノン, YHP
鉄鋼・金属	4	3	川崎製鉄, 住友金属, 新日鐵, 神戸製鋼, 日本鋼管
化学・薬品	1	0	サントリー
電鉄	1	0	近鉄
その他の会社	2	0	住友商事, 日経マクロウヒル
小計	43	61	
進学	76	10	
その他	3	0	
計	122	71	

に比べて多かった為、就職致しました学生は学士・修士を合せて百四名と少なく、教室主任と致しましては、数少ない卒業生が特定の企業に集中しないよう極力配慮をいたしました。御熱心な求人のお申込みにも十分応えることが出来なかつたことをお詫び申し上げます。それにしても、各企業の方々のお話しを伺っておりますと、わが国の電気関係学生の絶対数が社会の需要に比べて少な過ぎるのではないかと思われまます。わが国の技術の将来を考えると、これだけのかと考えさせられました。

また最近では、電気関係企業以外から電気技術者に対する要望が極めて高いということ、最近の技術の進歩により企業の中には技術に対する内容が急速に変化し、かつてのイメージではとらえきれない側面があるということです。このような状況を考えますと、教室主任として、学生へのガイダンスには一層きめの細かい配慮が必要であることを痛感致しました。

教官の異動

前号のお知らせ以降、つぎのような異動がありました。

- 藤戸 初夫 昭和59年12月31日、一般電気工学講座(安陪研) 助手を退職。
- 宇山 親雄 昭和60年2月1日、電気工学第二教室(旧近藤研) 助手より国立循環器病センター放射線医学部長に昇任(昭和38年電気工学科卒)

毎年のことながら、就職について洛友会会員諸兄には何かとご高配、ご援助を賜りましたことに御礼申し上げますと共に、今後とも

上田 皖亮
昭和60年3月16日、電気工学第二教室(旧上之園研)助教より教授に昇任、電力系統工学講座を担任(昭和34年電気工学科卒)

大澤 靖治
昭和60年4月1日、電気工学教室(林研)助手より筑波大学構造工学系講師に昇任(昭和44年電気工学科卒)

橋本 弘藏
昭和60年4月1日、電気工学第二教室(木村研)助手より東京電機大学助教に転出(昭和44年電気工学科卒)

金子 和博
昭和60年4月1日、電気工学第二教室(旧上之園研)助手より大阪産業大学助教に転出(昭和42年京都大学工業教員養成所卒)

白井 康之
昭和60年4月1日、電気工学教室(岡田研)助手に新任(昭和55年電気工学科卒)

山田 公
昭和60年4月1日、イオン工学実験施設助教より教授に昇任、クラスターイオン工学領域を担任(昭和36年大阪府立大学卒)

白井 博明
昭和60年4月1日、イオン工学実験施設助手に新任(昭和55年電子工学科卒)

宮内 肇
昭和60年4月1日、一般電気工学講座(安陪研)助手に新任(昭和45年電気工学科卒)

その他、電気系教室の技官寺谷慶三氏、事務官西村敦子さんが本年3月31日付で退職されました。また、イオン工学実験施設(施設長 高木俊宜教授)に、本年4月からクラスターイオン工学領域が認められ、つぎのような異動、新任がありました。

昭和60年4月1日、イオン工学実験施設助教より教授に昇任、クラスターイオン工学領域を担任(昭和36年大阪府立大学卒)

白井 博明
昭和60年4月1日、イオン工学実験施設助手に新任(昭和55年電子工学科卒)

昭和60年4月1日、電気工学第二教室(旧上之園研)助手より大阪産業大学助教に転出(昭和42年京都大学工業教員養成所卒)

白井 康之
昭和60年4月1日、電気工学教室(岡田研)助手に新任(昭和55年電気工学科卒)

同窓会だより

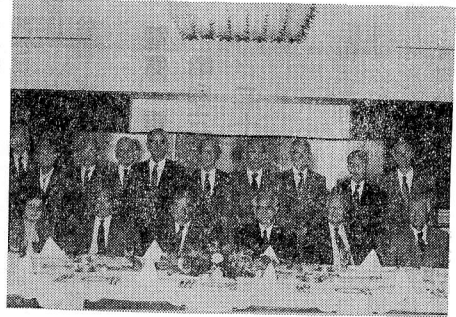
47周年記念

クラス会報告

正木 知己

期日 昭和59年10月20日(土)

5時~8時
場所 帝国ホテル4階 梅の間
出席者 秋田(夫人同伴)、井原、石崎、岩元、岡崎、河合、清野、清水、田崎、平田(幸造)、平田



黒四へ見学旅行
— 昭和十八年 —
卒業同窓会 —
昭和五十八年に開催した卒業四十周年同窓会席上で、黒四(黒部川第四発電所)の見学会を来年実施してはとの提案があり、その場で大勢は決定。また、幹事は上之園ということであった。
黒四への見学旅行日程として、

第一日目の九月七日(金)、宇奈月の旅館「延菜」に集合し、午後七時頃から会食、夫婦八組、単身者三名、計十九名、賑やかな会食であった。

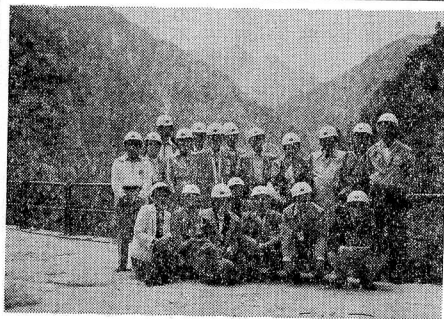
第二日目の九月八日(土)は、午前八時十二分宇奈月発(黒部峡谷鉄道) 樺平、ここからは専用鉄道にて黒部川第四発電所までという行程である。前日の会食中、黒部峡谷鉄道の線路に樹木が倒れたとかで、明朝は予定通り出発出来ないかもしれないというのであった。しかし、一夜明けると少し寒いが晴天であり、予定通りの時刻に発車することになり、お迎えのバスで旅館から黒部鉄道、宇奈月駅まで参り、駅前の事務所で休憩させていただき、ご懇切なご指示を頂戴しました。

黒部峡谷鉄道にはじめて乗車される方達でしたが、ご案内下された岩見様のご説明がユーモアに富んでおり、黒部峡谷の歴史や先人達のご苦労話をも交えたもので、楽しい車中でした。時折、下車して、そこからの風景等のご説明をいただきましたので、黒部峡谷について概括的全貌を脳裡にとどめることができた参加者はよろこんでいました。

樺平からは黒部川第四発電所に参り、発電所長様から発電所のご説明とご案内をいただきました。奥様方は発電所の大いこと等に驚き、興味を示していました。発電所内の応接室等で中食をさせていただきました。その後、発電所に別れを告げて、ケーブルカーで黒四ダムへ。発電所のご好意に感謝しつつダムを見学し、地下ケーブルで黒部平、立山ロープウェイで大観峰、立山トンネルを通って室堂に出て、ホテル立山に着いた。夕食は、食堂で会食す。

第三日目の九月十日(日)は生憎雨が降り出し、次第に雨足が強くなったので、参加者一同が高原バスで下山、美女平に到着。ここから立山ケーブルで立山へ。立山から電車で富山へ。正午頃富山駅で解散。

この度の黒四への見学旅行会は、第一・第二日目と天気がよく



く、楽しいクラス旅行会でした。かような楽しい黒四の旅が出来ましたのは、関西電力側の関係者のご尽力とご好意によるもので、厚くお礼申し上げます。

掲載した写真は、タル沢で撮影したものです。(上之園記)

卒業20周年記念

クラス会報告記

(39年卒)

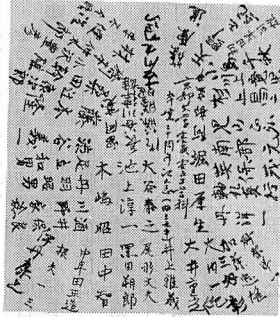
卒業して早や20年、市電が総て撤去され地下鉄が京の南北を貫く様を見て驚く同級生もなかには居るのではないかと。それ程不沙汰でなくとも、同級生、恩師に再会するのは楽しみかろうと、昨年12月8日、未だ京情緒の残る御霊神社前飄亭にてクラス会を開催した。

先ず第一部として我が電気・電子工学科の発展ぶりを見ようと旧電気・電子赤レンガが正門前に11名が集合して、教室の代表的施設の一つであるイオン工学実験施設を施設長である高木俊宜教授に案内していただき、又電気工学の将来像に関してお話を伺い一同感銘し又我が母校の更なる発展を祈った。

第二部の飄亭では居所判明者80名中41名出席、卒業時クラス主任であった大谷泰之名誉教授(現福井工専校長)、池上淳一名誉教授



京都大学電気工学科卒業20周年記念 39年卒 昭和60.12.8



(現福山大学教授、教室の木嶋昭教授の来賓をいただいて総勢44名という大盛会でクラス生一同、先ず感激した。

会は留岡君の司会のもとに不幸にも若く逝去された故大森昌基君のために一分間の黙祷を奉げ、元

気であった学生時代の氏の面影を偲び心からの哀悼を送って始まった。司会の提案で一人一分半の時間制限付きで、現況、家族構成、趣味を話すこととしたが、皆んな時間オーバーでまだ言い足りないと言った風情で会は一層盛りあがった。

大谷・池上両先生も祝辞と言うよりむしろ、両先生とも社会的に大活躍しているんだという熱気溢れる話を伺い、又今後のクラス会について先輩ならではの細かい気配りの話に、一同なる程と納得した。木嶋先生には教室の現況を伺い、20年の歳月の経過を改めて思い起した。その後、皆んなは幾つかの車座となる無礼講となり個人的な話にも花が咲き六時半終了予定の七時半の散会となり、楽しい一刻を過ぎ、再会を確約して別れを惜しんだ。

幹事 英保、足立、留岡、阿部

電気・電子工学科

昭和三十四年卒

二十五周年

同窓会記録

昭和三十四年卒、今まで五年毎に同窓会を京都と東京で交互に開催して来ており、昭和五十九年は二十五周年記念として東京で開催

することとなっていた。卒業後二十五年と言えば、何処の社会にいても、まずはその活動の最盛期に近い年頃ではあり、多忙の中をどれ位集まってくれるかにいささかの不安はあったが、ともかく日時は五十九年一月二〇日の土曜日夕刻とし、場所は伊豆伊東の川奈ホテルとして走ることとした。

当日および翌日は、この時期には珍らしい好天に恵まれ、前面には伊豆大島、八丈島、房総半島が、振り返れば白雪をいただく富士がくつきりと見渡せる素晴らしい日日となった。

心配した出席率は、宴会後に仙台からかけつけて来た一名を含めて、電気工学科が四八名中十七名、電子工学科が二八名中十九名、計七十六名中三十六名、丁度五〇%の出席率となった。電気科の出席率が悪いのは、卒業生の地域的分布が電子工学科よりもかなり広がっているためであろうと、これは連絡担当幹事のおぼやきである。欠席者の中には三名の物故者が含まれている。心から哀悼の意を表する次第である。

さて、この会には当然のことながら、お世話になった恩師を御招きする予定であったが、折悪しく当日は教室で重要な会議があるとか、遠隔地であるとかの悪条件が重なって、種々思案の末、今回は

遠慮申し上げることとなった。宴会は、電子工学科長尾真先生の教室近況の紹介にはじまり、電気第二工学科鷹尾和昭先生の乾杯のあと、各自自己紹介へと移っていった。中には、二十五年振りという顔もあり、白くなったもの、淋しくなったもの等々、四半世紀の流れは否定できないものの、暫しの後には皆昔の紅顔の美青年に戻ってしまうのは、同窓会の嬉しい処であろう。宴会終了後は、ゆったりとしたロビーでの歓談、バーでの歓談と相なつた。

翌二十一日の日曜日は、アウトドアスポーツに最適の天候となり、ゴルフ、テニス、ハイキング、観光とそれぞれ思い思いの方向に別れていた。ちなみにゴルフは名門川奈ホテルゴルフコースの富士コースで三組、ノーハンドイでのコンペとなった。

優勝は住商機電販売の東本武久君、準優勝は関西電力の宇田裕重君という成績であった。

この会を設定し準備していただいた東京側世話の方々、京都側世話の方々、および遠路をいとおわづかけつけて下さった皆様方に厚く御礼申し上げる次第である。(進士記)

- ☆
- ☆
- ☆
- ☆
- ☆

大正年代洛友デルタ会員の住所不明者の取扱について

講昭和14年卒 幹事長 神戸俊夫

先般開催されました洛友デルタ会の第5回総会（昭和59年9月15日）の席上において、議案として提出されました大正年代卒業生のうち、住所不明者を死亡者扱いにするとの案件に対し、本案を審議の結果これを可決し、この取扱いを幹事会に一任されました。

該年代の会員は、年令的にも80〜95才で生死も定かでない、長年連絡もとれなかったため、電算化名簿第2版発行に伴い、整理の都合上この際死亡者扱いとしてもやむをえないとの理由で可決されました。

- (1) 大正年代の会員中、住所不明者は死亡者扱いとする。
- (2) 死亡者扱い会員で生存が確認されたときは、再度名簿に登録する。
- (3) 洛友会会報計報欄には掲載しない。

以上のような処理を洛友会事務局に依頼しましたので、名簿上で住所不明となっているが、同級生などで交信のある会員各位は、生存を確認の上、神戸まで一報く参さるようお願い致します。参考までに住所判明者と不明者の比率は、次のとおりであります。大正年代住所判明者 二二四名 住所不明者 一〇九名 四八・六%

会員寄稿

偏差値問題解消

大学自由化への一提案

昭和13卒 平野進

若い人々の心を荒廃させている偏差値問題は、もとはといえば有名大学——少くとも大学と名がつくところ——を出たいという希望

者が多すぎることに主な原因がある。彼等の大多数がほしがっているのは、大卒という肩書であり学問の習得そのものではない。従って大卒というだけの事実が一切の世俗的な利益を生まないようにすれば、傷つき易い若者の心を荒廃へと追いこんでいる現状勢は大幅に改めることができる。そこで改革の目標につき次の提案をした。

- 一、学歴という概念を社会から抹殺する。
- 二、明治以来深く日本人の体にしみついた学歴尊重の概念を、制度面から積極的に抹殺する。具体的には
 - (1) 学士号を廃する。卒業証書の発行をやめる。
 - (2) 官庁や企業が学歴を人事給与面での格付条件とするのは差別であり、不当労働行為であると法律をつくる。
 - (3) 大学当局が、採用に関して推薦状を含む一切の文書を出すことを法律で禁ずる。（企業が就職希望者の知的能力とくに学力を調べることは容易である）
- 三、大学の入学試験を全廃する。
- 四、大学は、学問を修めようとする者には誰にでも、可能な限りの便宜を提供する。
- 五、同時に学問に関心のない者は在学できないような制度を確立し、これを厳格に実施する。
- 六、大学で授業、試験、論文報告の審査を受けることは、学生の権利である。
- 七、大学の行使は学生の自由意志に委ねる。ただし、一定数以上の単位について一回限り授業、試験、審査を受ける権利（所定期間内だけ有効）を、授業料、試験審査料を払って希望者は大学から買う。
- 八、一定単位数一定水準以上の成績をおさめなかった場合は、学生は高次単位についての権利を買うことが出来ない（落第に相当）。授業、演習、実習、実験の正常な実施を妨げる学生は所定の手続をへて退学させることができる。
- 九、大学は、答案や審査の評価結果とその根拠を明示し、誤りや不備を指摘する義務をもつ。
- 十、大学は、サービスの内容を具体的に公表しなければならぬ。

- 一、入学希望者は大学が提供するサービスマニュアルを含み授業内容の概要と試験問題、標準解答など一の実情を知ることが出来る。
- 二、自分の能力を考えて入学する。
- 三、大学の任務
- 四、大学の授業は、新しい学問の成果を将来も消化しうる潜在能力を学生に体得させることを目的とする。研究所、大学院は自ら学術を創造し発展させることと、それに従事する人材を育成することを任務とする。
- 五、大学院と学部で学生が授業を受ける科目について大学は制限を設けてはならない。
- 六、教授、助教授、講師は授業、演習、試験、実験実習に関し特定項目については、大学院学生、学部学生の評定を定期的にうける。
- 七、学部学生授業の義務のない研究所／大学院教授・助教授をおくことができる。
- 八、これら教授・助教授には、外国人や国内外社会人を任命することが出来る。（ノーベル賞受賞者や中学位しか出ていなくても立派な企業経営者なども任命できるように）
- 九、同一学部、大学院、研究所、教授、助教授の過半数を特定大学関係者で占めてはならない。
- 十、同一大学の研究所、大学院、学部他科へ、また他大学のそれらに教授、助教授、講師が入ることも自由である。（情報工学科の教授が経済学部大学院学生になっても、東大の教授が京大研究所の教授ではなく研究員になってもよい）
- 十一、大学への寄付金は、損金勘定とし課税の対象からはず

す。
企業や個人からの寄付を容易にする。大学の経理は所定の手続方法により監査を受け、その結果は公表せられる。

一三、文部省や大学理事会は、教官人事と授業内容に介入してはならない。

思いがけない出来ごと

講大正14年卒 吉田 寛 一

昭和59年3月、洛友会東京支部講読会の折、偶々隣り合せた人が、河原勇氏(京大昭18卒)であった。初対面ではあったが何故か河原武様とかかわりを持って居られるように思えたので、思い切つて当つて見たところ、武様の令兄河原孝様のご令息であった。感極まった私は叔父河原武様から深いご恩を受けている者であることや、武様の令兄河原孝様をも存じあげている事等を申しあげたのであったが、今日のこの不思議な因縁に思わず天地神明に感謝した次第である。

早速、教えて頂いた故河原武様ご遺族の消息を頼りに一日早くお逢いしたいものと計画を立てていた。或る日、突然武様の未亡人(操様)から電話を戴いた。50年前のお声である。お顔もはっきりと脳裏に浮かんで来た、電話の向うで「吉田さん私もスツカリ腰が二つに曲がりましたネ、81才になりましたヨ」と言われるが、仲々

はつきりとした老人らしくないお元氣なお声である。早くお訪ねしたい気持ちは、一層強くなった。4月20日(日)京都ホテルで、京大電気教室の二教授(近藤・池上両先生)の停年退官記念パーティーに出席を決めていたので、その前日4月19日(土)早朝東京を出発し、京都で山陰線に乗替え、教えられた通りの道順で先づ河原邸をお訪ねすることにした。

豊岡駅からタクシーに乗った。河原家は先祖代々庄屋をつとめて来られた由緒ある家柄で、邸宅も一番高い眺望の良い土地に建てられていた。故武様の奥様は自動車の通る道路まで出迎えて下さっていた。ふたつに折つれお鉢を、杖をつき乍ら寄つて来て下さった。私も走り寄つた。お互いに無事息災であることを感謝し合ったが、胸がつかまって暫らく言葉が続かない。纏って、坂道を、馴れているからと先導して下さる老夫婦に続いた。

令息武勇氏ご夫妻は共に、高校・中学の先生で、あの小さかった武勇君が東京の文理科大学卒業とのこと。

戦時中の激しかった色々な出来事を拝聴しましたが、愚痴は決して申しませんと話されるだけに、ご苦辛が如何に大きかったかが偲ばれました。ご夫君武様の御最後のご様子を克明に伺いましたが、当時の奥様のご心中をお察し申しあげ、返えず言辭もありませんでした。

御墓へ案内して頂いた「豊岡中学校」第三高等学校「京都帝国大学」卒業。電気工学を通じわが国の発展に貢献され55才で逝去されたことが『清真院義顕武彰居士』昭和22年8月31日没55才」と墓碑に刻まれて居た。私は長年の願望が叶い、ご健在の奥様から詳しくお話を承り乍ら墓前に香を供え、般若心経を称えることが出来、感慨又一入であった。

再びお邸へ戻り、大正12年田中大堰町のお宅で拝見した学生当時の大学ノート(十数冊に整理製本された難波正、青柳栄司先生等の講義が保存されている)を懐かしく六十年振り乍ら昔の河原様の筆跡を思い出した。又、昭和10年頃「ライカ狂」の私が、代々木富谷のお邸で撮らせて頂いたご一家の

写真を出され嬉しく拝見し、久々感慨深いものであった。この写真をお借りして帰る事にした。複写して飾って頂ける位の大きさに引伸して見たいと考えた。

お互いに話したいこと、聞き度い事が沢山あって仲々話が尽きないが、予定の列車の時間が来たので退出することにした。令息、武男先生が自家用車で豊岡駅まで送って下さった。お蔭で予定通りの時間に京都へ着いた。

翌20日(日)予定通り京都ホテルでの近藤・池上両教授の退官記念パーティーに出席した。ご臨席の

西安シルクロードの旅 ③

昭和7年 鈴木 茂

8月7日
目覚ると列車は砂漠を走る。同乗した紳士は地質屋さんで河南省出身と英語で名乗る。窓外の景色は平地は砂漠で、奥く続く山々は岩肌をむき出し荒涼とした風景である。河西通廊を進行して居た。

蘭州以西を河西と呼び、河は黄河を指す。烏鞘嶺(海拔三、八〇〇m)以西を河西通廊と呼び、北方の山地と南方の祈連山脈に挟まれた幅一〇〇km、長さ一、二〇〇kmの細長い地帯を指す。
この地方は雨量が極端に少なく
松田長三郎先生は河原武様とは同期である。昨日、河原様のお墓参りをして来たことを申しあげた所、松田先生は感無量の態で「僕は三高時代から河原君とは特別親しかったんだヨ」と、しばし私の手握って冥想に耽つて居られた。河原さんもご存命であれば当年91才である。
終りに、昭和59年3月17日『偶然に隣り合せた河原勇氏』この奇遇がなければ実現出来なかつたであろうこの現実に対し、私は私の一心が故人に通じたものと思わせて戴き度い。

年間五〇%に過ぎない。これに反し蒸発量は三、〇〇〇%に上る極端な乾燥地帯である。幸い海拔五、〇〇〇mをこす祈連山脈の雪解け水が集つた大小の河川が幾筋も流れ、点々とオアシスを作り砂漠へと消える。
新石器時代から文化が開け、紀元前三世紀にはシルクロードは開通し匈奴が支配した。
紀元前二世紀、前漢の武帝は名将霍去病の率いる遠征軍を派遣し匈奴をバイカル湖の西へ駆逐し漢の支配を確立した。

役所をおき、屯田兵を駐屯させ以来漢民族が定住する。武威、張掖、酒泉、敦煌の四郡を設け中央直轄とし農耕文化を移しオアシスの拡大を始めた。これにより東西交易は拡大し、シルクロードは大発展期を迎える事になった。

三世紀末より、漢民族の本土中原は混乱し政権の交代が続き河西地方も地方政権の交代が繰返はされるが相対的には中原よりも安定し、東西交易確保され文化の交流は続く。仏教もシルクロードを経由して東漸する。シルクロードの繁栄は宋代に南西航路が開かれる迄続く。

現在通廊には、漢、蒙、蔵、回等の九民族三六〇万人が定住し、耕地面積は六七万ヘクタールに達する。石炭、石油等が開発され、工場も新設される。舗装された公路が西へ延び、鉄道も開発し着々と開拓の歩が進められる。

列車は武威、張掖を通過し、同室の紳士も途中で去り車室は我等夫婦が残る。窗外は畑では菜種が花を開き、麦を脱穀する状況が見えるかと思えば、間もなく草原、砂漠に代る光景が繰返される。

太陽が西へ傾く頃、遠く南方に白雪を戴く祈連山脈の高嶺が姿を現す。二〇・三〇酒泉へ到着して下車した。

駅前に支所長が出迎えて呉れ

た。敦煌までの道程は四〇〇kmあるが夜間の公路を中型バスで突破して行かなくてはならないが、これは甚だ難儀な行程となった。新しく壮年の男子ガイドが追加され案内役をしてくれる事になった。彼は日本語は出来ないが英語は通じた。

予定では夜光杯工房と嘉峪関城を見る事になっていたが、時間が許さないので前者を割愛した。日没迄に嘉峪関城に到着すべく甘新公路をバスで急ぐ。公路は甘肅省と新疆省を結ぶ公路である。

四辺が闇くなる頃関城に到着したが城門は閉ざされていた。非常に素朴な顔をした管理人が迎える。来意を告げるとわざわざ家まで鍵をとり帰って呉れた。

説明書によれば、関城は明代一三七二年に万里長城の西端に築かれた。城壁は二重で、外城が煉瓦積み、内城が厚い土壁になり複雑な城郭構造になっており、城壁は三つあり皆三層である。当時サマルカンドにチムール帝国が勢力を張ったのでそれに備えたものと考えられる。

懐中電灯を便りに城壁へ昇った。真暗闇で展望はさっぱりであったが、砂漠の空は澄み、月はなく満天に星が輝き銀河が横たわっている。女性客は降る様な星月夜に感歎の声を上げた。

歎の声を上げた。

関守の小父さんが、貴客等は解放後最も遅い時刻の訪客になったとの咄きを背に関城を辞した。

目的地迄は前途尚四〇〇km近くある。今夜はバスにゆられて仮眠かと少々心細く感じている時、新ガイド氏から安西で宿泊してはと提案され渡りに舟とそれに乗った。それでも尚二五〇km位は行かなくてはならない。

甘新公路に戻って安西へ向う。砂漠の中を行くので灯火一つ見えず、対向する人も車も全くない。8月8日

深夜の砂漠を走り走って二〇〇km安西招待所に着いた。広い敷地の中に数棟の建物があり、その一棟に入る。部屋にはコンクリート床の上にベッドが二つ並び洗面も出来ない。トイレ付別棟へ闇の中を数十m手探りで行かなくてはならない。幸いにして寝具は清潔であった。

七〇〇までぐっすり眠ったので疲れもとれた。庭前の水道栓で顔を洗いさっぱりした気分になり食堂へ行き朝食をとった。他棟には中国人の宿泊客も居た。彼等は数人が合部屋で、戸外で車座になって食事をとっていた。安西は唐代には西域全体を統括する都護府の置かれた地で瓜州とも呼ばれる。

安敦公路を西へ敦煌へ向う。此

処から約一〇〇km西方にある。市街は昨夜通り抜けていたので、間もなく砂漠へ出て一本道を進む。赤茶けた砂は風に従って移動して風紋を画き貧弱なラクダ草が僅かに緑の彩りを添える砂漠行が続く。

古人は空に飛鳥を見ず、地に走る獣の姿もない、見渡す限り道標はなく、行くは唯死人の枯骨をたどって進むと形容したが、今の吾々は冷房付バスで舗装された公路を進むので格別の苦勞はない。

狼火台の遺蹟があったので、バスを停め記念写真をとった。左側には黒い岩肌を剥き出しにした三危山の山並みが延々と続く。それが尺ぎる端に鳴砂山の低い姿が見え始めた。

公路から別れて左折して進むと、間もなく鳴砂山麓にオアシスが見えて来た。河流が山麓を削り礫岩の断崖を露出させ断崖には沢山の洞窟が口を開いている。窟前には疎林が緑の葉を茂らせ其処に莫高窟があった。

橋が河流を跨ぐ所の、右手前に王道士の墓があり、橋をこえると莫高窟の正面に出てバスは停った。右手には敦煌文物研究所の低い建物があった。木造九層の高い楼閣を中心に、左右に礫岩の断崖をくり抜いた数層の洞窟が口を開く。清らかな小

川が断崖に平行して南から北に流れ、兩岸には白樺やポプラの老木が緑の葉を茂らせ長い列を作る。洞窟は総数六〇〇近くあり仏像や壁画のあるのが四九二窟で、大部分は正面中央より左の一、〇〇〇mの地区にあり、右手の六〇〇mの地区には見るべき作品はない。洞窟は西方に向って口を開いている。

昼食を挟んで夕方まで洞窟を巡視し研究所の女子職員から説明を聞いた。他にも多数の内外人の観光客の群れが賑かなものである。中央の楼閣は九層であてやかな朱塗りである。その背後に大洞窟が掘られ高さ三三mの北大仏が倚座する。中に入ると目前を大きな二つの足が塞ぎ、はるか上の方に

仏顔が拜せられたが俗っぽい。武則天の時代に造られ何回か修理され最後の修理は清代になされたが改悪になったらしい。高さ二六mの南大仏は唐代の美しい姿を残すというが案内されなかつた。

次の洞窟には長さ一五m近くもある涅槃像が横たわる。まわりの壁には各民族の服装をした多数の人物や、鳥獣が歎き悲しむ状況が描かれる。同一大の涅槃像が更に一体あると言うが案内されなかつた。

唐の中期以後、河西はチベット

族に占領されるが、これを恢復して初代帰義軍節度使となった張議潮とその一族の勲功と繁栄を描いた洞窟もあった。

その他の、いくつかの洞窟に案内されたが經典に盛られた物語りを現していた。

昼食後は南地区の洞窟のいくつかを見た。

窟院は礫岩の断崖をくり抜いて洞窟とし、中央にわらや藁を巻きつけた木の枠を心にした骨組の上に泥を塗って成形し仕上げ、彩色した本尊や脇仏を安置し壁と天井を壁画で飾る構造になっていた。

初期の仏像は足を十字に組合せて倚座する交脚仏で日本内地では見られないものである。

中には煤で真黒に汚れている洞窟もある。ロシア革命の時、多数の難民が新疆省へ逃げこんで来たが、当時の中国の辺境官憲が不用意にも洞窟に住わせたので、その時の炊事の煙によるものである。

最後に藏経洞に案内された。本洞と脇にほられた附属の小洞がある。本洞も開山堂で今は何も無い。附属の小洞には耳房と呼ばれる。その北壁の左手には双髻の若い侍女が、右手には比丘尼が画かれ、その中間に修業僧が坐って禪定の修業をする状態を現す。

莫高窟最後の日、僧等は経文や仏画を耳房に積上げ入口を漆食で

固め、その上を壁画で飾り避難をしたとされ、時期は一〇世紀と想像される。

窟の草創は五胡一六国の一つの、前秦の建元二年(紀元三六六年)といわれる。沙門楽樽が各地を行脚して鳴砂山に来た時、三危山が夕日の残光に照らされて金色に輝き其処に千仏の姿を見たのが洞窟を造った創りといわれる。

洞窟寺院を掘る技術は印度から西域を経て伝承したもので当初は禪定修業の道場として創る。

仏像を安置し壁画で飾る洞窟寺院の造営は五胡一六国の一つの北涼から四二二年の事である。四二九年北魏は北涼を亡して華北に統一国家を創める。僧侶、職人を敦煌から首都大同に移住させ大同の石仏を造営した。九州の女王ヒミコに金印を贈ったのも北魏である。

その後、北周の武帝は廢仏令を発し、仏寺仏像をこわしたが、それでも五胡一六国時代の窟院は三四窟を数える。

北周から出た隋の文帝は中原を統一した。仏教を復活し仏寺仏像の修復に努めた。隋の治世は三十年代に過ぎないが造営された窟院は九七窟ある。聖徳太子が法隆寺を建立した時代に当る。

七世紀には隋に代って唐が中原を統一する。二世皇帝太宗は玄奘

三蔵を信任して、長安に大慈恩寺を建て仏典の漢訳を行わせ、仏教は再盛期を迎える。最澄、空海が渡唐するのはその後である。

中紀以後の唐朝は道教に傾斜する。末期の武宗が廢仏詔書を発したのが八四五年である。この時こわされたのは大規模の官寺だけでも四、六〇〇余、小さな民寺は四万以上、還俗させられた僧尼の数は二六万人をこえた。

廢仏詔書は間もなく撤回されるが、仏教の再興は成らず道教が代って官民信仰の中心になる。唐は一〇世紀初め滅亡し長安は廢墟となった。

唐代には、敦煌では高さ三三三m及び二六mの大仏が造営され、窟院は二二五を数え芸術的評価は最高である。

唐代の、この地の人口を四万人と言われ、唐土の全人口四千万人の〇・一%に上る。交易上の地位は現代中国の上海にも匹敵しよう。

唐の衰退期、西域はチベット族に支配されるが八五一年敦煌の豪族張議潮が立ち、チベット族を追いつた。唐は彼を地方政權を樹立したが、唐の帰義軍節度使に任命したが、唐の力を借りずに政權を樹立したので中央の変化を受ける事はなかった。

唐の末期から西域に勢力を伸ば

したのは、チベット族の一派のタングート族の国西夏で、支配地域は黄河が北に大きくカーブを画くオールドス地方であったが、河西も併せ領した。

私の歩んで来た道と趣味

講大十二年卒 柳 沢 鶴 雄

私の若い頃は、何の趣味もなく又その様な余暇もなかった様な気が致します。

学生時代は唯、学問一筋でとりわけ電気工学が非常に好きでした。当時は苦学と申しましたが働

きながら勉学に励みました。火力発電所、変電所に勤務しながら通学致しましたが、学問と仕事を両立させた事は、現在社会人となつてから非常に役に立った事を思い出されます。

卒業後は会社も変りもつばら電気鉄道の建設と保守工事に従事し、それも幅広く「ケーブルカー鉄道の電化工事」として、電車の架線、変電所、電気信号、電話等、諸々の工事を十八年間経験致しまして良い勉強になりました。

それからある機会を得まして四十歳で独立致しました。

本職の電気屋からカーボン屋に転職致しましたが、カーボンも電気に関連する事業ですから今まで

年程つづくが、この間に三四の窟院が造営される。次いで宋が中宗を統一することになる。西夏も初めは宋に臣従するが、李元昊が王位につくと軍備を拡張し一〇三五年独立を宣言した。(以下次号)

事務局だよ

居所不明者の調査結果について

洛友会会報の60年新年号誌上において、居所不明者(以下返送者という)の調査の方法並びに59年10月号送達時の結果については、同誌上に発表したとおりであります。同誌上には、新年号送達時の結果について公表することをお約束しましたので、これについて報告致します。

新年号送達総数は四、七九四通(59年度卒業生を含む)で、その内返送された数は五六通、従って返送率は約一・二%(前回は九二通約二%)となり、若干返送率が減少した。

次に返送者の卒業年次別の内訳は、次のとおりである。

大正年代	0
昭和2~9年代	1
昭和10年代	2(1)
昭和20年代	1(1)
昭和30年代	4
昭和40年代	27(2)
昭和50年代	21(1)
計	56(5)
	37%

注(一)内は、59年度会費納入者で、その年代の返送数の内数である。

これらの数字から判明するように、返送者の内、各年代が占める返送率は、昭和40年代が約48%、昭和50年代が約37%で合計85%が40、50年代で占めることになる。以上56人の返送者の内、所属会社に問合せ照会の結果、三月七日現在回答の得られた分は36人であり、残り20人は未回答である。本年は名簿改訂第2版の発行年でもあり、名簿の正確を期す上においても未回答の会員各位は、一日も早く事務局の送付した調査票をご返送くださるようお願いいたします。

“居所不明者年次別一覧表”掲載の結果について

60年新年号に該一覧表を發表しましたところ、会員各位から多数の情報をいただきました。ご多忙中わざわざ情報を提供していただいた会員諸氏に對しまして、深甚なる謝意を表し、心からお礼申し上げます。判明しました情報の内容は、次のとおりであります。昭和60・3・15現在、敬称略死亡判明者

大2	小野道三郎
昭16・3	堀田 正義
昭17	丹波 勝行
	以上 三名
居所判明者(氏名省略)	三名
情報判明者(氏名省略)	二名
合計	八名

なお、同一不明者に対し数氏から情報を得ましたことを付記させていただきます。

卒業年次別会費納入状況について

洛友会が会員各位のため、例えば会報、名簿などの発行や本部を始め、各支部の活動を円滑にして会員相互のご便宜をはかるなどに必要な会費の収入は、洛友会の運営、活動にかかせない財源であることは、今更申し上げるまでもないことです。

名簿が電算化されるまでの会費請求の方法は、ご承知のとおり手動の宛名印刷機により宛名が印刷され封筒に、当年度又は前年と当年度の納入金額がスタンプで捺印されている二連の会費納入用振替用紙が会報に同封されておりまして、

この方法によりますと、“失礼な”とおしかりを受けるかもしれませんが、先づ会員各位の郵便番号、住所、氏名、卒業年などを書くのが面倒でもあり、また振込金額欄に金額が記入されていないの

で、ついつい後でということにもなりかねませんでした。

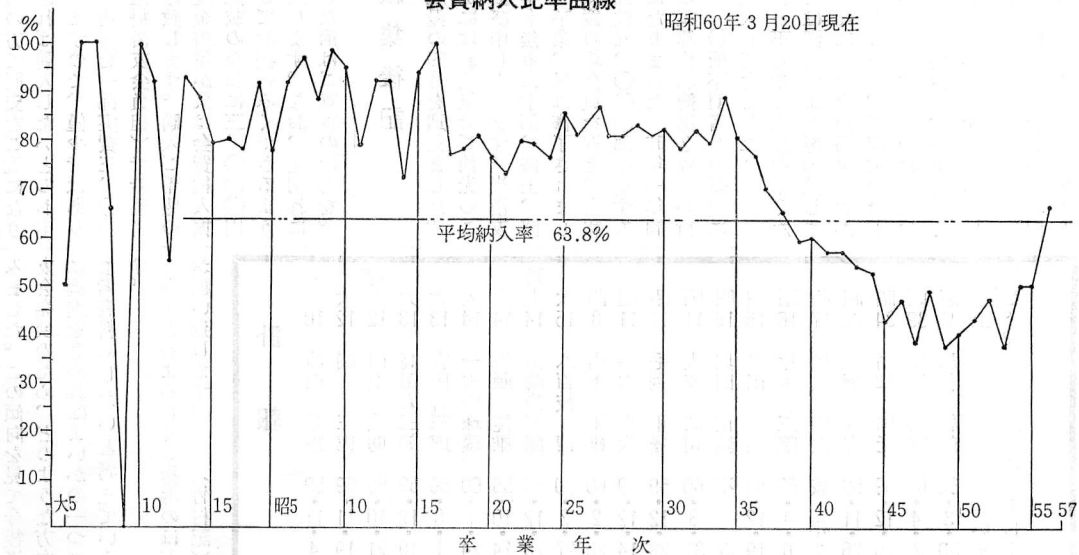
従ってこの方法が採用されている間、すなわち振込業務が電算化されるまでの毎年の会費収入金額は、調査結果がないので詳しいことは判かりませんが、毎年の卒業生を含め大体50%を少し越す程度と想定されます。

これに對しまして、昭和59年度から振込業務が電算化されてからは、各卒業年次別の納入者や金額が、自動的に計算されますので、会費納入状況の把握は容易になりました。ただし、電算化当初(昭59年度)は、名簿記載事項不備のため、会報新年号“居所不明者”の調査について“の欄に記載しましたように”居所不明者”一六三名と“完全行方不明者”約五〇名、計二一三名の調査が終了しな

図 1

卒業年次別 会費納入比率曲線

昭和60年3月20日現在



ん。

新年号にも発表しましたとおり、"居所不明者"一六三名中四回の調査(4・7・10・1月)により約一一〇名が、また"行方不明者"約五〇名中居所判明又は死亡確認計六名が判明しましたので、この時点での会費納入状況(昭和60年3月20日現在)をお知らせすることに致しました。ただし、"居所不明者"で所属会社などへ問合せ中で未回答のものを除去してあります。

まず、集計及び納入者比率の算定基準としましては、

(1)各卒業年次ごとの登録人員から"居所不明者"及び"行方不明者"及び"海外駐在者"を差引いた人員を集計する(A)。(参考までにこの対象総数四、一七二名)

(2)会費納入者人員数(B)は、59年度会費納入者を1、58年度のみを納入者を0.5として算出する。(参考までにこの納入者総数二、六六三名)

(3)(A)/(B)を納入比率とする。(参考までに各年次平均納入率六三・八%)

(4)電気工学講習所卒業生の納入比率については、次回に発表する。

以上の方法により各卒業年次ごとの納入比率をプロットした曲線を図1に示します。

図1のグラフから推定されまことは、

(1)大正5年から昭和16年までの22年間の各年次ごとの納入比率が乱高下しているのは、名簿上の在籍者が他の年次、例えば、昭和40~50年代に比して少くなく、納入者が多少増減してもその比率が乱高下するためである。しかし、この年次の納入比率は、何れの年次にあつても平均納入率六三・八%を上廻っていることは明白である。

(2)昭和17~36年までの20年間、多少の変動はあつてもほぼ75~85%の間を上下しているにすぎないし、勿論平均納入率を上廻っている。

(3)昭和37~57年までの21年間、特に44年以降は漸減が目立つ。この年次の会員各位は、卒業後10~20年を経過し、勤務地変更等により"居所不明者"も多く、また住宅ローン、子息の学費等個人的な出費も多いと考えられるが、平均納入比率をはるかに下廻り35~50%を低迷している。冒頭にも記したとおり会費納入は会の運営、活動に欠くべからざる財源であるので、よりしくご協力のほどお願い致します。

(4)57年以降の各年次については、この年次の会員は、学部卒業又は修了課程終了時に本部会費の

み(二、三〇〇円)を徴集しており、上述(2)の理由により正確な納入比率を捕捉することが困難なため、記載されていない。

以上を要約しますと、

(1)"居所不明者"の存在に比例して、これが少くない年次大正昭和30年前半までは、納入率が安定し、75~100%である。

(2)これに反して"居所不明者"が比較的多数存在する30年度後半、特に40年度後半の不振が著しく、その納入比率も35~50%である。

以上今回始めて59年度末の会費納入状況をグラフをもって具体的に公表し、これを解説いたしました。

文中失礼な箇所もあつたことと存じ、この点深くおわび申し上げますと共に、今後洛友会がますます発展いたしますようご支援ご指導を賜りますよう重ねてお願い致します。(竹村記)

洛友会30周年記念史

残部僅少

洛友会の創立30周年を記念して刊行されました同記念史は、同記念委員会の趣意に賛同され醸金された会員各位にご寄贈致しました。以上の理由により同史の印刷部数は、非常に限定されておりま

す。会員の方で同史をご覧になり残部があれば購入したいとお申出が有りますので、僅少ではありますが、残部を一部実費三、〇〇〇円(送料洛友会負担)で希望者にお頒け致します。購入ご希望の方は、現金書留か又は会費納入振替用紙記載の金額に三、〇〇〇円を加算してお振込みくださるようお願い致します。なお、売切れになりました節はご寛容のほどを。

編集後記

桜花爛漫の四月を迎えました。会員各位にはお元気でご消光のごとお慶び申し上げます。当洛友会は本年も無事に学部、修士、博士課程を卒業、又は修了されました新進気鋭の新会員を迎え、会報の発行部数五、〇〇〇部に達する大世帯になりました。昨年一年間は今年の電算化名簿第2版の発行に備え、"居所不明者"の調査に全力を投入してきました。

第1版の不備やご意見を第2版においては満たすよう努力致しましたので、なにとぞ会員各位におかれましてもご支援、ご協力のほどお願いいたします。そのためには変更のあつた場合は、一刻も早くご連絡賜わらんことを切にお願い申し上げます。なお、今回初めて会費納入状況を卒業年次別にグラフにまとめて

みました。この傾向を見て今後洛友会発展のため、どのような方向に調査を進めればよいかの一つの参考資料にしたいと考えています。今後ともよろしくご指導のほどお願い致します。(竹村記)

計報

大10	池内 是憲	59.11.4
大12	関 三郎	59.11.19
講大12	田上 義助	55.10.21
大13	高田太三郎	59.12.19
大13	吉田吉三郎	56.8.1
大14	一本松珠璣	60.1.24
大14	佐藤 純雄	55.10.14
講大14	山崎惣三郎	59.12.28
大15	八百枝 清	60.2.27
昭8	山下 正雄	60.2.26
昭11	鈴木 重次	59.12.14
昭11	毛利 正登	59.12.28
昭11	大森 武司	60.3.31
昭16	堀田 正義	不詳
昭16	豊田 実	59.12.19
昭16	片木剣三郎	60.4.6
昭17	丹波 勝之	戦死?
昭22	大塚 成吉	58.11.26
昭34	高畑 国光	59.12.25
昭39	園田 嘉文	60.4.7
昭41	加藤 彰朗	60.3.30

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。